

第27話：義務、義理果たす虹の女神イリス

「虹の女神。神々の女王ヘラに仕え、伝令役を務める。
有翼の女神。 (ムネモシユネ)」

オリオン、タロ、ディオを背に龍のユニは、カワセミの先導で、小雨のなか、大きな河を上流に向け遡ります。どれほど時間が経ったでしょうか、下界に、四つの川が合流している周囲を山々で囲まれた盆地が見えてきます。カワセミは、ここまでくれば大丈夫と、龍のユニの鼻先で、羽根を休め、その正体を明かしました。女神です。

「我は、正義の女神、ディケなり。もう追手は来るまい。皆、無事でなにより。」

タロは尋ねました。

「じゃあ、姉妹のエウノミア、エイレネはどうしたの？」
ディケは答えます。

「我ら三女神は、時の神なり。
されど、三女神とは、我ディケの三様なのだ。」

確かに、社会の理想とは、秩序が保たれ、正義が行われ、平和が維持されることにある。これは、別々のことではなく、一つのことである。ちょっと難しいかな？」

タロは答えます。

「でも、それぞれが三女神なことは分かるよ。」

ディケが続けます。

『時』で言うなら、朝を迎える際に、夜空の星が消え、月が消え、太陽が顔を出し、星、月、太陽が入れ替わる。雲の中の氷の粒は、やがて雨となって地上に落ち、蒸発して、また雲に戻るのさ。植物は、冬眠する冬を除いて、芽生えの春、生長の夏、結実の秋を迎える。人の人生は青春、朱夏、白秋、玄冬と続く。神が自ら出来ることは、ディオニソスの酒のお陰で、玄冬に戻らないことだけだ。未来はたちまち現在になり、現在はたちまち過去になる。これらは皆、時の流れのなかでは、一つのものに過ぎぬ。

『時』 = 『Κρόνος』 = クロノスこそは、我が母親捷の女神の父、私の祖父にあたるクロノスそのものだ。」

タロは答えます。

「わかったような、わからないような話だね。とにかく『今を大切に！』ということは分かった気がするよ。」
話し終わると、女神ディケは元のカワセミに戻りました。

カワセミの案内で、盆地中央にある湖に到着しました。湖の回りには、早咲きのあやめ、アイリスが咲き乱れています。いつの間にか、雨は上がったようです。

オリオン、タロ、ディオは、龍のユニの背を降り、歩き始めました。川沿いに昇って行くと、両側に二つの石柱がありました。どこかの園内のようなようです。紫陽花の花の円球がそこかしこで、雨に濡れ色鮮やかに輝いています。空気を澄み渡り、皆、深呼吸したくなりました。

目の前にひときわ美しいアイリスが咲いていました。カワセミが話し掛けると、その花は女神に変わりました。女神には、ニケと同じく、翼があります。女神は声を発しました。

「私は、イリスです。ご主人ヘラの侍従です。ようこそ。皆さんの到着をお待ちしておりました。ゼウス様の奥方のヘラ様は、是非ディオさまにお会いしたい、とのこと。これからご案内させていただきます。」

ディオは不思議に思いました。

「ヘラさま？ 僕、良く知らないよ。会った憶えもない。でもディケの時も、会った憶えはなかったけど、会っていたんだね。でも、僕に父親ゼウスのこと、よくわかるかも知れない。タロ君、一緒に行こうよ。」

ディオの熱意に、タロも頷きました。

女神イリスの案内で、タロとディオは、園の奥に進んで行きます。カワセミ、龍のユニが続きます。

案内されたのは、丘の上にある空き地でした。イリスは雨雲が去ったばかりの空に向って、大声で叫びました。

「『ο υ ρ ά ν ι ο τ ό ξ ο !』 =オラニオ トクソ！」
つまり、『虹』に声を掛けたのでした。

太陽がタロたちの背中から顔を出すと、タロたちの目の前に、大きな虹が現れました。虹の七色が綺麗です。上から、赤、橙、黄、緑、青、藍、紫です。イリスの声に応え、虹は、タロたちに迫ってきます。そして、向きを変えて、虹の端がタロたちの方に向き直りました。それは、まるでタロたちが渡るのを待っているようでした。

イリスは、虹の端に近づき、虹に足を掛けました。そこに、階段がありました。イリスの続き、オリオン、タロ、ディオが虹の階段を昇って行きます。

カワセミと龍のユニは、虹の中央目指し飛んで行きます。イリスは、オリオンに話しかけました。

「この虹の橋を通り、ポセイドンは南の国々から神の国に『金』を背負って、運び入れた、と聞いております。」

「『時』も『金』も、実にうつろいやすいものである。」と、オリオンは思いました。

虹の中央、天辺まで来ると、女神イリスは、オリオンに告げました。

「ここから空に飛び立ちなさいませ。ここからがヘラ様の居城へ赴く唯一の道となります。さあ、どうぞ。」

それだけ言うと、イリスは虹の橋を降りて行きました。タロたちは、龍のユニの背に乗って出発です。カワセミは、ユニの頭に止まっています。新たな旅が始まります。

イリスの夜空の居城は、龍座です。

タロは気になって、ズボンのポケットの小さなノートを開くと、二十四頁に文字が書いてあります。

「易経：上卦＝天：下卦＝雷：天雷无妄」

「自我私心は災難のもと、無心の勘は神の声」

天意に随い、我が道を行け。

「雨の後に虹が出始める」そんな季節です。

それからどうなったでしょう？お話し、続きはまた明日！